

オリーブの会：創世記16章を開きましょう。2019年10月6日(日)

登場人物は3人です。アブラムとその妻サライ、若い女奴隷ハガルです。

サライは今、75歳。ずっと不妊でした。神からの約束があったにもかかわらず、この世の風習に従うことにしました。10年待ったが・・・と。そして、若い女奴隷を代理妻にしました。しかし、問題が起きました。

*サライの取った手段は信仰的には疑問ですが、あなたは信じて待てますか？

ハガルは妊娠が分ると、子どもを産めない女主人を見下げるようになりました。女奴隷の態度が変わったことに、サライは敏感に気づきます。侮辱されるとカッとなり、ハガルに辛く当たります。具体的な内容は省かれていますが、女の嫉妬とプライドが火を噴きます。ハガルの間違いは、自分の身分を忘れて高ぶったことですが、耐えられなくなってハガルは逃亡します。逃げて逃げて、追手が来ないのを確認し、泉のほとりで一息つきます。

*ハガルは泉のほとりで、何を考えたでしょうか。

ハガルと同じ経験をしたことがありますか。

サライもハガルも共に、自分は被害者だ、悪いのはあいつだ、と考えたでしょう。ところで、アブラムの態度については、どう思いますか。

泉＝オアシスで、木々が生え、水がこんこんと湧いています。そこでハガルは、1人の人物に出会います。向こうから話しかけます。そして彼はハガルに、「女主人のもとに帰り、従順に仕えなさい」と命じます。ハガルには一番聞きたくない言葉だったでしょう。「もうここまで来たのなら、今更、もう後には戻れないし、戻るべきではない。故郷に戻り、新しく出直すと良いですよ」とは言わなかった。もし、あなたが主の使いだったら、ハガルに何と助言しますか？

逃げてはいけない、問題から逃げても解決にはならない。でも、逃げる以外に方法がない時もあります。果たしてハガルは身を低くし、今迄の言動を悔い改めることができたのでしょうか。あなたがハガルなら、どうしますか？

では、泉のほとりとは私たちにとってどこ？主の集会、礼拝の場です。そこでハガルは、主イエスに出会ったからです。誰も顧みてくれないと思っていたハガルは、向こうから話しかけてきたイエス様に救われたのです。エル・ロイの神、私を見守ってくださっていた神と出会ったのです。十字架の主イエスは身を低くして、従順に仕えられました。そのようなお方が言われたので、ハガルはサライの許に戻り、身を低くできたのです。